

様式1		令和4年度 清瀬市立清瀬第十小学校		学校評価計画	
学校の教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
<p>・豊かに感じ、よく考える子ども</p> <p>・友達の良さがわかり、助け合う子ども</p> <p>・心身をきたえ、明るく生きていく子ども</p>		<p>○育成を目指す資質や能力を「他者とのかわりを通して、よりよく問題を解決できる力(協働問題解決力)」とした。それを実現させるために必要な能力を以下の4つとした。</p> <p>・基礎的な力(言語、数量、情報スキル) ・他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知)</p> <p>・他者と共生できる力(人間関係形成力) ・社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)</p> <p>学ぶ楽しさ、分かった・できた喜びを感じられる授業の実践、自他の命を大切にすることを育む教育の充実によって、育成すべき資質や能力の実現を図る。また特色ある教育活動としてタブレット端末、「十小のきまり」、「十小ファミリールール」を活用したり、「十小リボンプロジェクト」や養蚕体験を通じた命の学習に取り組んだりする。</p>			
目指す学校像(ビジョン)					
<p>【目指す学校像】①児童にとって明るく楽しく安心できる学校</p> <p>②教職員にとって明るく楽しく指導が行える学校</p> <p>③保護者や地域と連携し信頼される学校</p> <p>【目指す児童・生徒像】自分を大事に、かわりを大事に、命を大事に、未来を大事にする児童</p> <p>【目指す教師像】児童に達成感を味わわせ、確かな学力・自尊感情を育ませることのできる教師</p>					
前年度までの学校経営上の成果と課題					
<p>成果 確かな学力の向上、健やかな体の育成、本校の特色は取組指標、成果指標それぞれの項目が「4」となっており、学校関係者評価でも信頼と期待された御意見をいただいている。豊かな心の育成におけるいじめへの対応、特別支援教育における組織的対応も取組指標、成果指標それぞれの項目が「4」となっており総じて安全・安心な学校として教育活動が展開されている。</p> <p>課題 取組指標が「4」ではあるが、成果指標が「1」とその項目の中で一番低かったのは、特別支援教育の充実として定めた「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。」であった。学習支援を必要とする児童の一人一人のつまづきやニーズを的確に分析し、その人数を増加させないことが課題である。</p>					
柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践を重視した教育活動を行う。	「学ぶ楽しさ、分かった・できた喜び」を感じられる授業を実践する。	児童の思考・判断・表現力を育成するための授業改善を行い、校内研究で授業提案をして日々の授業に生かす。	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が23人(全員)	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が20人以上23人未満	3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人以上20人未満	2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人未満	1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
豊かな心の育成	一人一人の児童の良さを認め合い、命と人権を大切にすること豊かな児童の育成を図る。	互いの良さを理解し、すすんで助け合う児童の育成に努める。	月1回のあいさつ運動や、十小リボンプロジェクトを行う。	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が23人以上	4 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが90%以上
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が20人以上23人未満	3 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが80%以上
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人以上20人未満	2 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが70%以上
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人未満	1 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが70%未満
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と心身の健康や体力の向上を図り、生きる力にあふれる児童を育成する。	児童がすすんで運動や遊びに親しみ、健康の保持増進と体力の向上を図る。	体育指導の工夫改善や、体力向上旬間を実施する。	4 学期1回の道徳授業実践とアンケート実施5回以上を全学級で実施	4 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが90%以上
				3 学期1回の道徳授業実践とアンケート実施5回以上を10学級以上18学級未満で実施	3 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが80%以上
				2 学期1回の道徳授業実践とアンケート実施5回以上を10学級以上14学級未満で実施	2 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが70%以上
				1 学期1回の道徳授業実践とアンケート実施5回以上を10学級未満で実施	1 アンケートによる児童と保護者の満足度の評価A・Bが70%未満
特別支援教育の充実	個に応じた指導・支援の充実を図る。	保護者、関係諸機関と連携した組織的な支援体制の充実を図る。	校内委員会を定期的に開催し、保護者、SCや巡回相談心理士と連携しながら、アセスを活用して児童の実態や指導方法を共有し、実践の振り返りを行う。	4 情報分析と共有・振り返りを年間6回実施	4 アセスの対人支援領域の児童が8割減った。
				3 情報分析と共有・振り返りを年間5回実施	3 アセスの対人支援領域の児童が5割減った。
				2 情報分析と共有・振り返りを年間4回実施	2 アセスの対人支援領域の児童が2割減った。
				1 情報分析と共有・振り返りを年間3回実施	1 アセスの対人支援領域の児童が減らなかった。
本校の特色	外部人材を活用して協働問題解決能力を育成する。	体験や活動を通して他者と共生できる力、社会の中で実践する力の向上を図る。	蚕学習、赤ちゃんのチカラプロジェクト、認知症サポーター養成講座、松竹梅+科学の力向上プロジェクト、町探検、保育園・幼稚園との交流等、体験的な活動を実施する。	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が23人(全員)	4 アセスの学習支援領域の児童が8割減った。
				3 教職員の自己評価で肯定的な回答が20人以上23人未満	3 アセスの学習支援領域の児童が5割減った。
				2 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人以上20人未満	2 アセスの学習支援領域の児童が2割減った。
				1 教職員の自己評価で肯定的な回答が17人未満	1 アセスの学習支援領域の児童が減らなかった。
ICTを活用した個別最適化学習を通して、基礎的な力の向上、他者と共に考える力の向上を図る。	タブレット端末を活用するなどして、協働問題解決学習を週に3時間以上実施する。	ICTを活用した個別最適化学習を通して、基礎的な力の向上、他者と共に考える力の向上を図る。	タブレット端末を活用した協働問題解決学習を全学級で実施	4 体験的な活動を全学級で実施	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上
				3 体験的な活動を14学級以上18学級未満で実施	3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上
				2 体験的な活動を10学級以上14学級未満で実施	2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上
				1 体験的な活動を10学級未満で実施	1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
ICTを活用した個別最適化学習を通して、基礎的な力の向上、他者と共に考える力の向上を図る。	タブレット端末を活用するなどして、協働問題解決学習を週に3時間以上実施する。	ICTを活用した個別最適化学習を通して、基礎的な力の向上、他者と共に考える力の向上を図る。	タブレット端末を活用した協働問題解決学習を全学級で実施	4 ICTを活用してみんなで考える授業は、楽しく、分かりやすいと答える児童が90%以上	4 ICTを活用してみんなで考える授業は、楽しく、分かりやすいと答える児童が90%以上
				3 タブレット端末を活用した協働問題解決学習を14学級以上18学級未満で実施	3 ICTを活用してみんなで考える授業は、楽しく、分かりやすいと答える児童が80%以上
				2 タブレット端末を活用した協働問題解決学習を10学級以上14学級未満で実施	2 ICTを活用してみんなで考える授業は、楽しく、分かりやすいと答える児童が70%以上
				1 タブレット端末を活用した協働問題解決学習を10学級未満で実施	1 ICTを活用してみんなで考える授業は、楽しく、分かりやすいと答える児童が70%未満